

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

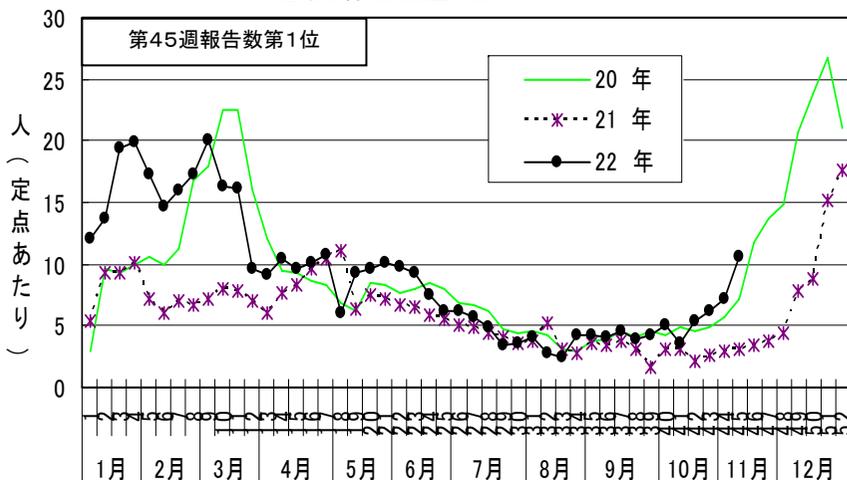


KAWASAKI CITY

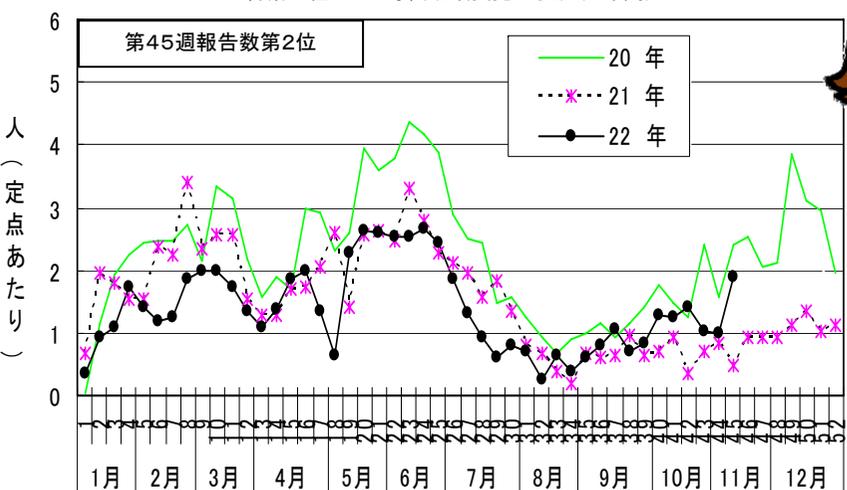
平成22年11月8日(月)～11月14日(日)〔平成22年第45週〕の感染症発生状況

第45週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 水痘でした。
 感染性胃腸炎は定点あたり10.58人と前週(7.12人)より患者報告数は増加しました。また、平成11年以降の同時期と比較すると最も多い報告数となっております。さらに、区別では、多摩区で特に報告数が多く、定点あたり18.00人と流行発生警報基準値(定点あたり20人)に近い値となっております。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点あたり1.88人と前週(1.00人)より患者報告数は増加しました。
 レジオネラの届出が2件(いずれも感染経路及び感染地域は不明)ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



今年の冬は「洗手必焼(せんでひっしょう)」！！

右のグラフにあるとおり、現在、感染性胃腸炎患者が増加傾向にあり、過去5年平均を上回るペースです。

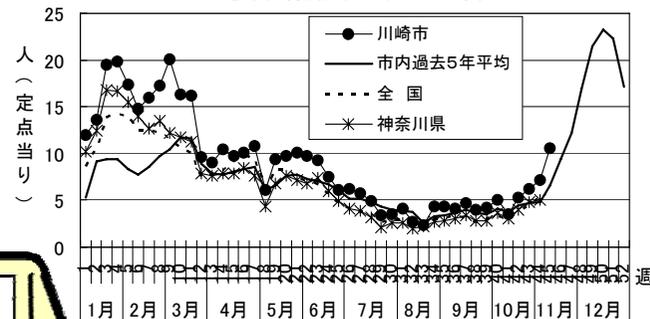
これから感染性胃腸炎が流行する時期に入ります。原因として、ノロウイルス等のウイルスによるものが増えてきますので、今から感染予防対策を徹底し、おう吐や下痢に悩まされることなく冬を過ごしましょう。

ノロウイルスとは、冬季などを中心に急性胃腸炎を起こすウイルスです。下痢やおう吐などの症状が出て、通常であれば2～3日で回復しますが、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では重篤な症状になることがあります。また非常に感染力が強く、ごく少量のウイルスで発病します。感染者の便やおう吐物には多量のウイルスが含まれ、それが付着した手や食品などを介して感染が拡大することがあります。

～ノロウイルス食中毒警戒情報発令～

感染症発生動向調査における「感染性胃腸炎」の患者数が前週の値に比べ3週間連続して増加したことから、神奈川県内に「ノロウイルス食中毒警戒情報」が発令されました。期間は平成22年11月15日から平成23年3月末日までとなっております。

感染性胃腸炎発生状況(川崎市)



洗手(せんで)

感染者の便やおう吐物、それに汚染された手指、水、食品などを介して経口感染するので、手洗い・うがいを徹底しましょう。

さらに、便や汚物を放置してしまうと、乾燥して空気中に舞い上がり、それが口に入ることによって感染することもあります。患者さんの便やおむつ、おう吐物は乾燥しないうちに早めに片付けましょう。

必焼(ひっしょう)

二枚貝等の生食には注意し、加熱が必要な食品は中まで加熱(85℃で1分以上)して食べるようにしましょう。

